



福島

# いわきの地から震災復興・林業振興を 間伐材を活用した 究極のエコ ビジネスモデル

いわきたかはし  
磐城高箸

自然豊かな四時川沿いにある磐城高箸（福島県いわき市川部町川原、高橋正行社長、0246・65・0848）は、東日本大震災の約半年前、平成22年8月に設立された高級割り箸製造・販売を行う企業である。

震災後、風評被害による契約解除、さらにいわき南部を震源とする大規模な余震の中も、2カ月後には操業を再開した。その後、復興支援ボランティアと開発した製品「三県復興 希望のかけ箸」が大きな注目を集めている。同製品は、岩手県陸前高田市、宮城県栗原市、福島県いわき市の被災三県各市から産出する杉間伐材を使用した高級割り箸3膳セットで、価格の3割を義援金として各市役所に直接寄付している。そのデザイン性、社会性が高く評価され、平成23年8月



「三県復興 希望のかけ箸」

の全国間伐材利用コンクールで間伐推進中央協議会長賞、平成25年にはグッドデザイン賞、平成26年にはソーシャルプロダクツアワードをはじめ、数々の賞を受賞している。

同社の事業は衰退する林業振興の目的も兼ね、割り箸のみに留まらず、お食い初め用の「おめでた箸」や、ヒノキ間伐材鉛筆、端材を利用した杉枕など、間伐材を有効活用した新製品も次々と開発・発売している。また、環境負荷を低減させる取組みも徹底しており、仕入れた杉間伐材丸太から加工する過程でも廃棄物は一切出さず、さらに割り箸を乾燥させる熱源には薪ボイラーを使用し、石油系燃料は全く使用していない。究極のエコとも言えるビジネスモデル全体として、平成26年11月には、復興庁主催のビジネスコンテストにおいて大賞に輝いた。

今後も同社の活動から目が離せない。詳しい内容はホームページ（<http://iwaki-takahashi.biz/>）にて。



「北限のひのき鉛筆」